

ウェザーニューズ、「第二回花粉飛散傾向」を発表！相次いだ台風の影響は？
花粉シーズン開始は2月初め、東日本を中心に6年ぶりの大量飛散か
 西・東日本の飛散ピークは2月下旬～、飛散量は全国平均で2018年の2.7倍予想

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区 代表取締役社長:草開千仁)は2019年の花粉シーズンに向け、「第二回花粉飛散傾向」(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)を発表しました。

今冬の気温は平年並か平年より高い予想で、花粉シーズンの開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。2月初めに関東や九州南部を中心に飛散が始まり、2月中旬には西・東日本の広範囲で飛び始め、3月上旬にかけて飛散エリアは東北へ拡大します。西・東日本で飛散ピークを迎える時期は、スギ花粉が2月下旬～3月中旬、ヒノキ花粉が3月下旬～4月中旬の予想です。

雄花調査の結果(※1)、近畿や東日本の一部で台風の強い雨風によるスギの倒木や塩害報告が寄せられました。ただ、台風の影響は限定的で、飛散量を大きく減少させることはないとしています。東日本を中心に、6年ぶりの大量飛散となる恐れ(※2)があるため、ここ数年花粉症の症状が軽かった方やまだ発症したことがない方も油断は禁物です。

※1 アプリ「ウェザーニューズタッチ」の利用者に、スギの雄花の様子を写真とコメントで報告していただいた(調査期間:11月10日～16日、報告数:658件)。

※2 予想飛散量の詳細は「第一回飛散傾向」からご覧いただけます。 <https://jp.weathernews.com/news/24849/>

本プレスリリースの素材のダウンロード		「第二回花粉飛散傾向」の一般向けサイト
ウェブ版プレスリリース 「第二回花粉飛散傾向」 https://jp.weathernews.com/news/25511/	スマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」を ダウンロード後、『お知らせ』にアクセス	ウェザーニューズウェブサイト 「第二回花粉飛散傾向」 https://weathernews.jp/s/topics/201812/040045/

◆2019年「第二回花粉飛散傾向」

＜飛散開始時期:花粉シーズン開始は2月初め、関東・九州南部などが一番乗り＞

スギの雄花は、冬の寒さを経験することで休眠から目覚め(休眠打破)、寒さがピークを過ぎて暖かくなると、花粉を飛ばし始めます。このため、冬の適度な寒さと春の気温の上昇が、飛散開始のタイミングを左右します。

花粉の飛散開始時期に影響する2018年12月～2019年2月の気温は、平年並か平年より高い予想です。西・東日本を中心に暖冬傾向ではありますが、断続的な寒気の流れ込みに伴って休眠打破が起こり、2019年シーズンのスギ・ヒノキ花粉の飛散開始時期は平年並かやや早いと考えています。

2月初めには関東や九州南部を中心に飛散が始まり、2月中旬には近畿や東海など西・東日本の広範囲で、2月下旬には北陸や東北部、3月上旬には東北北部でも飛散が始まる予想です。

飛散開始時期は1月下旬以降の寒さが緩むタイミングに大きく左右されるため、最新の情報をご確認ください。



＜飛散ピーク時期：西・東日本のスギ花粉は2月下旬～3月中旬、ヒノキ花粉は3月下旬～4月中旬＞

スギ花粉の飛散ピークは、西・東日本の広範囲で2月下旬～3月中旬、東北では3月中旬～4月上旬の予想です。3月が終わりに近づくとスギ花粉のピークは越え、代わって西日本からヒノキ花粉が増えていきます。

太平洋側のエリアでは概ね3月下旬～4月上旬、日本海側のエリアでは4月上旬～中旬にヒノキの花粉飛散量がピークとなる予想です。

また、シラカバ花粉が飛散する北海道では、道南・道央はゴールデンウィーク前後、道北・道東は5月中旬に飛散ピークを迎える予想です。



＜予想飛散量：記録的猛暑の影響で、東日本を中心に6年ぶりの大量飛散となる恐れ＞

2019年のスギ・ヒノキ花粉シーズンの花粉飛散量は、西日本の一部で平年をやや下回る地域もありますが、全国的に平年並か、平年より多い予想です。全国平均では平年の6割増となり、特に、東日本を中心に予想飛散量が平年の1.5～3倍になるとみられています。

また、全国的に花粉飛散量が少なかった2018年と比べても、北海道を除いて花粉飛散量はほとんどの地域で多くなり、全国平均では2018年の2.7倍となる予想です。東日本を中心に、6年ぶりの大量飛散となる恐れがあるため、ここ数年、花粉症の症状が軽かった方やまだ発症したことがない方も油断せず、2019年シーズンはしっかり対策を行ってください。

※予想飛散量は10月1日発表の「第一回花粉飛散傾向」から変更ありません。詳細はウェブ版プレスリリースよりご覧いただけます。(https://jp.weathernews.com/news/24849/)



◇雄花調査の結果：「例年/昨年より多い」報告が多数、台風の影響は限定的の見込み

ウェザーニューズでは、2018年夏の天候、年ごとの飛散量傾向（飛散量が多い表年・少ない裏年の関係）、雄花調査の結果などから、2019年春の花粉飛散量を予想しています。本発表では、11月10日～16日に全国のウェザーニューズ会員と協力し、花粉の発生源となるスギ雄花を調査した“雄花リポート”を活用しています。

“雄花リポート”を調べたところ、全国的に「例年/昨年より多い」という報告数が、「例年/昨年より少ない」という報告数を上回りました。また、近畿や東日本のウェザーニューズ会員からは、台風によるスギの倒木や塩害によって枯れたスギの報告が寄せられましたが、台風による影響は限定的で、飛散量を大きく減少させる水準ではないと考えています。



東京都大田区・11月10日
「ちょっと多いような」



静岡県伊豆市・11月14日
「塩害かなあ」

◆エリアごとの 2019 年花粉飛散傾向

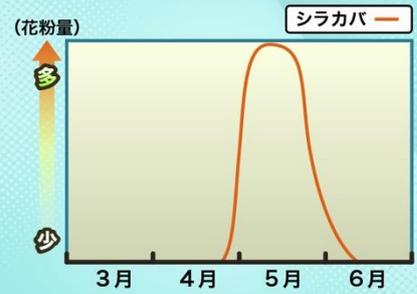
北海道：飛散開始は 4 月中旬～、飛散量は平年並の予想

この冬は平年並の寒さとなって休眠打破が適度に起こり、シラカバ花粉の飛散開始時期は概ね平年並となる見込みです。4 月以降、寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、道南など早い所では 4 月中旬、その他のエリアでは 4 月下旬から 5 月にかけて花粉シーズンに入るとみています。

道南や道央エリアの飛散ピークはゴールデンウィーク前後、道北や道東では 5 月中旬で 6 月に入ると段々と飛散量は少なくなる見込みです。

2019 年シーズンのシラカバ花粉の飛散量は、平年並の 1.13 倍、2018 年シーズンの 0.82 倍となる予想です。平年並の予想ではありますが、雨上がりの翌日や強風時には、一時的に大量飛散する恐れがあるため、油断せず対策が必要です。

花粉の飛散ピーク予想 北海道



東北北部：飛散開始は 3 月上旬～、飛散量は 2018 年比の 4～7 割増

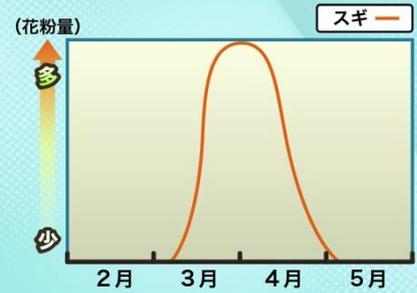
この冬は平年並の寒さとなって休眠打破が適度に起こり、花粉の飛散開始時期は平年並となる見込みです。3 月になると段々寒さが緩み、太平洋側から花粉の飛散が始まる予想です。

飛散ピークは 3 月下旬～4 月上旬で、4 月中旬以降飛散量は段々と少なくなる見込みです。

2019 年シーズンの予想飛散量は、平年並の 1.01～1.13 倍、2018 年シーズンの 1.44～1.67 倍になる予想です。2018 年シーズンと比べて、症状がつかく感じる可能性があるため、しっかり対策を行ってください。

なお、東北北部で春に多く飛散するのはスギ花粉で、ヒノキ花粉はほとんど飛散しません。

花粉の飛散ピーク予想 東北北部



東北南部：飛散開始は 2 月下旬～、6 年ぶりの大量飛散の恐れ

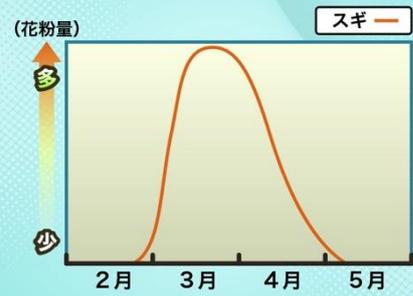
この冬は平年並の寒さとなって休眠打破が適度に起こり、花粉の飛散開始時期は平年並となる見込みです。2 月の寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2 月下旬～3 月上旬に太平洋側から花粉シーズンに入ると予想しています。

飛散ピークは 3 月中旬～下旬で、4 月以降飛散量は段々少なくなる見込みです。

2019 年シーズンの予想飛散量は、平年よりも多い 1.16～1.75 倍、2018 年シーズンの 1.81～2.57 倍になる予想です。特に、ピーク時は大量飛散の恐れがあります。2014 年～2018 年は、飛散量が比較的少ない年が続きましたが、2019 年はここ数年に比べて症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

なお、東北南部で春に多く飛散するのはスギ花粉で、ヒノキ花粉はほとんど飛散しません。

花粉の飛散ピーク予想 東北南部



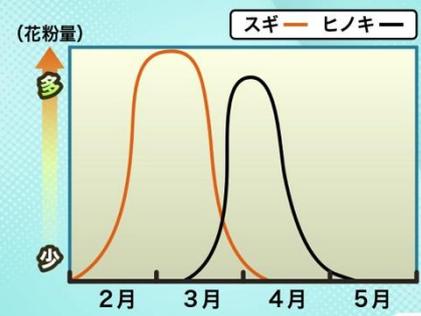
関東：飛散開始は 2 月初め～、6 年ぶりの大量飛散の恐れ

この冬は暖冬傾向ですが、断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、花粉の飛散開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2 月上旬には花粉シーズンに入る予想です。

その後 2 月下旬～3 月中旬にスギ花粉、3 月下旬～4 月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎えるかとみえています。

2019 年シーズンの予想飛散量は、平年の 2 倍以上となり、非常に多い予想です。また、2018 年シーズンと比べても、1.69～6.83 倍となる見通しです。特に、ピーク時は大量飛散の恐れがあります。2014 年～2018 年は、飛散量が比較的少ない年が続きましたが、2019 年はここ数年に比べて症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

花粉の飛散ピーク予想 関東



北陸・長野：飛散開始は2月下旬～、6年ぶりの大量飛散の恐れ

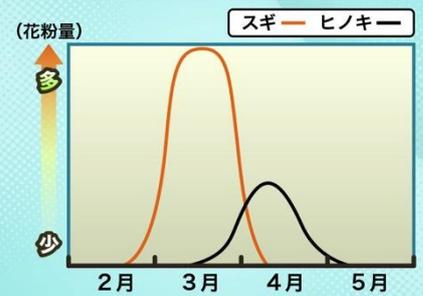
この冬は暖冬傾向ですが、断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、花粉の飛散開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。2月の寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2月下旬に花粉シーズンに入る予想です。

その後、3月上旬～下旬にスギ花粉、4月上旬～中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎えるとみています。

2019年シーズンの予想飛散量は、平年より多い1.63～1.97倍、2018年シーズンの2.07～4.18倍となる予想です。特に、ピーク時は大量飛散の恐れがあります。2014年～2018年は、飛散量が比較的少ない年が続きましたが、2019年はここ数年に比べて症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

なお、北陸で春に飛散するのは、例年スギ花粉がメインで、ヒノキ花粉は少ない傾向にあります。

花粉の飛散ピーク予想 北陸・長野



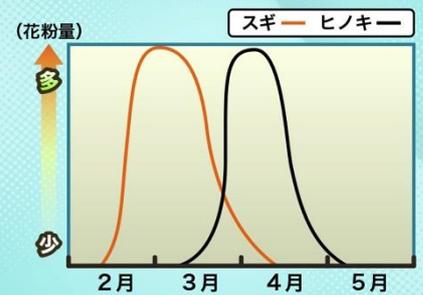
東海・山梨：飛散開始は2月上旬～、6年ぶりの大量飛散の恐れ

この冬は暖冬傾向ですが、断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、花粉の飛散開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。2月の寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2月上旬～中旬に花粉シーズンに入る予想です。

その後、2月下旬～3月中旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎えるとみています。

2019年シーズンの予想飛散量は、平年より多い1.22～2.43倍、2018年シーズンの1.84～5.47倍となる予想です。特に、ピーク時は大量飛散の恐れがあります。2014年～2018年は、飛散量が比較的少ない年が続きましたが、2019年はここ数年に比べて症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

花粉の飛散ピーク予想 東海・山梨



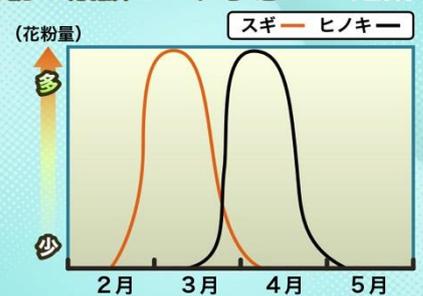
近畿：飛散開始は2月中旬～、6年ぶりの大量飛散の恐れ

この冬は暖冬傾向ですが、断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、花粉の飛散開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。2月の寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2月中旬に花粉シーズンに入る予想です。

その後、2月下旬～3月中旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎えるとみています。

2019年シーズンの予想飛散量は、平年より多い1.11～1.97倍、2018年シーズンの1.38～6.67倍となる予想です。特に、ピーク時は大量飛散の恐れがあります。2014年～2018年は、飛散量が比較的少ない年が続きましたが、2019年はここ数年に比べて症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

花粉の飛散ピーク予想 近畿



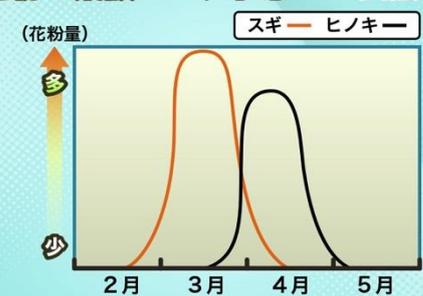
山陰：飛散開始は2月中旬～、6年ぶりの大量飛散の恐れ

この冬は暖冬傾向ですが、断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、花粉の飛散開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。2月の寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2月中旬に花粉シーズンに入る予想です。

その後、3月上旬～中旬にスギ花粉、4月上旬～中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎えるとみています。

2019年シーズンの予想飛散量は、平年よりやや多い1.32～1.46倍、2018年シーズンの7.41～9.25倍となる予想です。特に、ピーク時は大量飛散の恐れがあります。2014年～2018年は、飛散量が比較的少ない年が続きましたが、2019年はここ数年に比べて症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

花粉の飛散ピーク予想 山陰



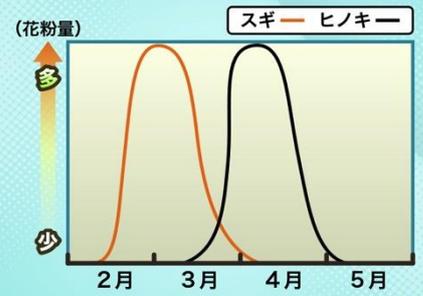
山陽: 飛散開始は2月中旬～、飛散量は2018年比の5倍予想も

この冬は暖冬傾向ですが、断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度起こり、花粉の飛散開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。2月の寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2月中旬に花粉シーズンに入る予想です。

その後、2月下旬～3月中旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎えとみています。

2019年シーズンの予想飛散量は、平年よりやや多い1.29～1.50倍、2018年シーズンの1.51～5.08倍となる予想です。また、2015年～2018年は飛散量が平年並か平年以下の年が続きましたが、2019年はここ数年に比べて症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

花粉の飛散ピーク予想 山陽



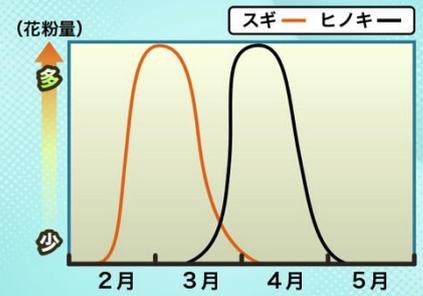
四国: 飛散開始は2月中旬～、飛散量は2018年比の2～4倍に

この冬は暖冬傾向ですが、断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度起こり、花粉の飛散開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。2月の寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2月中旬に花粉シーズンに入る予想です。

その後、2月下旬～3月中旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎えとみています。

2019年シーズンの予想飛散量は平年並の地域が多く、平年の0.63～1.46倍、2018年シーズンの2.34～3.96倍となる予想です。2018年シーズンと比べて、症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

花粉の飛散ピーク予想 四国



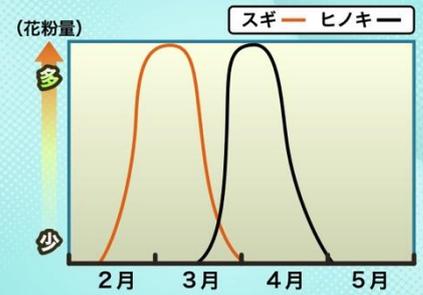
九州北部: 飛散開始は2月中旬～、飛散量は2018年比3倍の地域も

この冬は暖冬傾向ですが、断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度起こり、花粉の飛散開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。2月の寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2月中旬に花粉シーズンに入る予想です。

その後、2月下旬～3月上旬にスギ花粉、3月下旬～4月上旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎えとみています。

2019年シーズンの予想飛散量は、平年よりやや多い1.16～1.54倍、2018年シーズンの1.08～3.13倍となる予想です。2018年シーズンと比べて、症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

花粉の飛散ピーク予想 九州北部



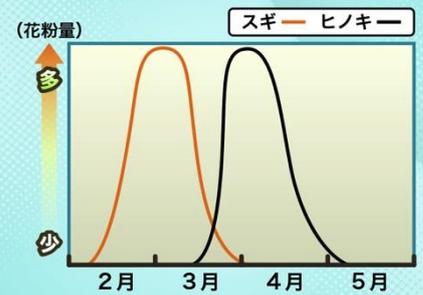
九州南部: 飛散開始は2月初め～、飛散量は2018年比の2～3倍に

この冬は暖冬傾向ですが、断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度起こり、花粉の飛散開始時期は平年並かやや早くなる見込みです。2月の寒さが緩むタイミングで花粉が飛び始め、2月上旬には花粉シーズンに入る予想です。

その後、2月下旬～3月上旬にスギ花粉、3月下旬～4月上旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎えとみています。

2019年シーズンの予想飛散量は、平年並の0.77～1.06倍、2018年シーズンの1.98～2.75倍になる予想です。2018年シーズンと比べて、症状がつかく感じる可能性が高いため、しっかり対策を行ってください。

花粉の飛散ピーク予想 九州南部



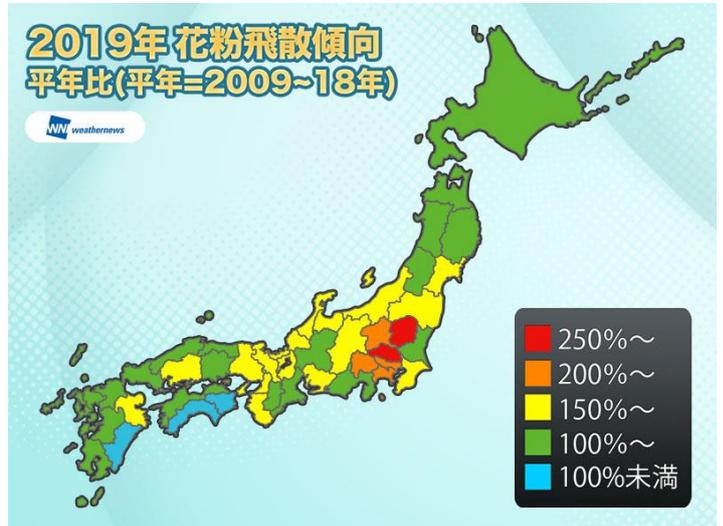
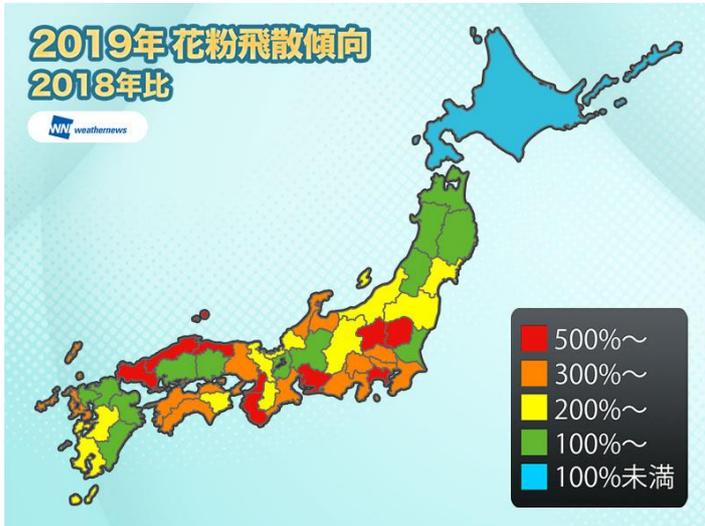
◆都道府県ごとの2019年花粉飛散傾向

エリア	都道府県	花粉飛散量 (2018年比:倍)	花粉飛散量 (平年比:倍)	花粉シーズン 開始予想	花粉シーズン 終了予想
北海道(シラカバ)	北海道	0.82	1.13	4月下旬	6月中旬
東北	青森県	1.67	1.13	3月上旬	5月上旬
	岩手県	1.44	1.06	3月上旬	5月上旬
	秋田県	1.51	1.01	3月上旬	5月上旬
	宮城県	2.57	1.57	2月下旬	5月上旬
	山形県	1.81	1.16	3月上旬	5月上旬
	福島県	2.34	1.75	2月下旬	5月上旬
関東	茨城県	1.69	1.14	2月上旬	5月上旬
	栃木県	5.66	2.58	2月上旬	5月上旬
	群馬県	6.83	2.29	2月上旬	5月上旬
	埼玉県	4.82	3.11	2月上旬	5月上旬
	千葉県	3.22	1.60	2月上旬	5月上旬
	東京都	4.26	2.35	2月上旬	5月上旬
	神奈川県	5.64	2.29	2月上旬	5月上旬
中部	山梨県	3.40	2.43	2月上旬	5月上旬
	長野県	2.31	1.71	2月中旬	5月上旬
	新潟県	2.29	1.97	2月下旬	5月上旬
	富山県	3.61	1.63	2月下旬	5月上旬
	石川県	4.18	1.93	2月下旬	5月上旬
	福井県	2.07	1.88	2月下旬	5月上旬
	静岡県	3.88	1.23	2月上旬	5月上旬
	愛知県	5.47	1.94	2月中旬	5月上旬
	岐阜県	1.84	1.48	2月中旬	5月上旬
	三重県	4.10	1.22	2月中旬	5月上旬
近畿	滋賀県	1.38	1.52	2月中旬	5月上旬
	京都府	2.25	1.83	2月中旬	5月上旬
	大阪府	6.67	1.83	2月中旬	5月上旬
	兵庫県	3.26	1.97	2月中旬	5月上旬
	奈良県	2.04	1.11	2月中旬	5月上旬
	和歌山県	6.13	1.70	2月中旬	5月上旬
中国・四国	岡山県	1.51	1.29	2月中旬	5月上旬
	広島県	1.57	1.50	2月中旬	5月上旬
	鳥取県	9.25	1.32	2月中旬	5月上旬
	島根県	7.41	1.46	2月中旬	5月上旬
	山口県	5.08	1.30	2月中旬	5月上旬
	徳島県	2.34	0.63	2月中旬	5月上旬
	香川県	3.80	1.46	2月中旬	5月上旬
	愛媛県	3.38	1.21	2月中旬	5月上旬
	高知県	3.96	0.86	2月中旬	5月上旬
九州	福岡県	1.12	1.37	2月中旬	5月上旬
	佐賀県	1.13	1.45	2月中旬	5月上旬
	長崎県	3.13	1.48	2月中旬	5月上旬
	大分県	1.08	1.54	2月中旬	5月上旬
	熊本県	2.51	1.16	2月中旬	5月上旬

	宮崎県	1.98	0.77	2月上旬	5月上旬
	鹿児島県	2.75	1.06	2月上旬	5月上旬
全国	—	2.72	1.65	—	—

※平年:天候の平年は1981年～2010年の過去30年平均、花粉飛散量の平年は2009年～2018年の過去10年平均
 ※飛散量:花粉観測機「ポールンロボ」が観測すると想定される花粉数。過去のポールンロボの観測数をもとに予想を算出
 ※北海道はシラカバ花粉の飛散量。沖縄は目立った花粉の飛散がないため除く

◆参考:花粉飛散傾向(予想飛散量)



※詳細は「第一回花粉飛散傾向」からご覧いただけます。

◆参考:ウェザーニューズの花粉観測網について

～日本最大級の花粉観測網を展開！～

ウェザーニューズの「花粉プロジェクト」は、花粉症の方々の役に立ちたい！という想いで、2005年から実施しているユーザー参加型の取り組みです。全国のご家庭や企業などに、独自開発した花粉観測機「ポールンロボ」を約1,000台設置し、空気中に含まれる花粉をリアルタイムに自動観測します。

一般的な花粉観測方法では、ガラス板に付着した花粉を顕微鏡で数える「ダラム法」が主流となっていますが、情報の更新に時間がかかるのに加え、1日単位の飛散量しか把握できません。また、観測しているのは病院や自治体など、各都道府県で1施設程度です(東京都は約10施設。観測情報が公表されていない都道府県もあります)。

ウェザーニューズは、日本最大級の花粉観測網とこれまでの蓄積データを活かし、予報精度向上を目指すと共に、アプリの利便性を高め、花粉症の方が少しでも楽に過ごせるよう、サポートしていきます。



花粉観測機「ポールンロボ」設置イメージ